

# 25 journal

society&business Tokyo25 journal

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

## 「江戸東京野菜」で東京農業を元気に JA東京中央会が52種を登録

東京で栽培されている伝統野菜を「江戸東京野菜」という。都民に広く提供できるようにJA東京中央会(野崎啓太郎会長)が2011年にこの呼称を使用していくことを定めた。

「江戸東京野菜」は、それでも地域の歴史江戸時代から昭和40年を伝える存在として注ごるまでの間に都内の農地で栽培されていた置した江戸東京野菜推進委員会をはじめ、江戸東京・伝統野菜研究会、NPO法人江戸東京野菜コンシェルジュ協会、生産者らの努力で構成した江戸東京野菜推進委員会はこれまで、52種類を認定している。JAの直売所などで購入が可能だ。

「江戸東京野菜」は昔ながらの品種のため、病気に弱いなどの問題があり安定生産が難しいとされてきた。替わって手軽に大量生産できる野菜に押されたほか、都内の農地が減少したこともあり、生産の維持が危惧されたこともあった。

西多摩地域でも「江戸東京野菜」が栽培されている。代表はのらぼう菜。

あきる野市小中野の子生神社には「野良坊菜之碑」がある。3月には「小中野のらぼうまつり」が開催される。



のらぼう菜の収穫(あきる野市五日市)

境内に「のらぼう菜」の市が立ち、発祥地の味を求めて多くの人でにぎわう。

五日市地区のらぼう菜生産者で組織するJAあきがわ五日市ファーマーズセンター「のらぼう部会」は五日市地区の学校給食での「食農教育」活動やイベントへの提供なども行っている。

奥多摩町に100年以上前から伝わる昔ながらのジャガイモがある。その名は「治助イモ」。奥多摩でも忘れかけられた作物だったが、町は20年ほど前から地域の活性化や耕作放棄地対策に役立てようとブランド化に取り組んでいる。明治時代に奥多摩に住んでいた治助さんが、隣の檜原村から種芋を持ち帰ったのが、その名前の由来だという。

## 江戸東京野菜の栽培に情熱

関塚貢司さん 青梅市新町

青梅市新町の関塚貢司さん(68)は、江戸東京野菜の栽培に力を注いでいる。50代半ばで会社勤めを辞め、祖父の代から続く農業に

専念するようになった。スイーツキャベツなどの新しい野菜栽培に挑戦するほか、大蔵ダイコン、亀戸ダイコン、下山千歳白菜などの江戸東京野菜を作ってきた。

新町と今井にある計300坪の畑では現在、ほぼ出荷を終えた

後関晩生小松菜、1月中、下旬の出荷を予定する金町コカブ、馬込三寸ニンジンなどが育っている。今年も猛暑に苦しみ、栽培は難しいが、やりがいがある」と関塚さん。JA西東京霞園芸生産組合長を務めるなど多忙な毎日だが、充実感が顔に満ちている。



金町コカブの畑で育ち具合を見る関塚さん



関東一円で知られるのが奥多摩ワサビ

その檜原村では「おいねのつる芋」と呼ばれるのが奥多摩ワサビ。多

摩川の清流と冷涼な気候に恵まれた奥多摩では、文化文政の頃には盛んにワサビ栽培が行われていた。文政6年(1823)の「武蔵名勝図会海沢村の条」には「山葵この地の名産なり。多く作りて江戸神田へ出す」とあり、寿司のネタと酢飯の間にワサビを付けた江戸前の握り寿司が考案された頃と、時代は重なるという。

奥多摩ワサビは山中の沢で栽培される水ワサビで、寒暖差が大きいため、辛みが強いのが特徴。江戸時代には将軍家に献上されていた。

野崎会長は「JA東京中央会として江戸東京野菜のブランド化に引き続き力を入れ、生産と流通をしっかりと後押ししたい」と期待を寄せている。

職人技のネットワークで  
快適な生活空間を造ります

総合建設業 東京都知事許可 第77829

### 須崎士建

〒198-0014 青梅市大門2-360  
☎0428-31-1432 fax0428-31-5731

### 不動産全般

(公社)全日本不動産協会 (公社)不動産保証協会  
東京都知事免許(2)第95965号

### 有限会社 幸邦

代表取締役 田村 実

羽村市羽西1-6-27

Tel.042-555-7901 Fax042-555-7902